

12月4日～10日は人権週間

- ◇人権のつどい
- ◇人権標語入賞作品が決定

人権週間は、国連総会で「世界人権宣言」が採択されたことを記念して1948年に定められました。世界人権宣言の趣旨と重要性を広く国民に訴えかけ、人権尊重思想の普及、高揚に取り組むための週間です。市では、人権週間に合わせて人権のつどいを開催します。

◆人権のつどい2019

【日時】12月7日(出)14時～16時

【場所】総合文化会館

【内容】

- ◇オープニングコーラス
- ◇中学生人権作文の表彰・発表
- ◇フリーアナウンサーの辛坊治郎さん ▲辛坊治郎さん



による講演「テレビの見方お教えします ～情報の正しい選び方～」

【その他】要約筆記・補聴器支援機器あり

【問い合わせ先】人権啓発推進室(☎66・1022)

◆特設人権相談

【日時】12月7日(出)10時～12時

【場所】総合文化会館

【内容】人権擁護委員による面接相談(個室) ※31日に関連記事

【問い合わせ先】法務局舞鶴支局(☎76・0858)

◆人権標語 入賞作品が決定

7月～9月に募集した人権標語に5,568点の応募があり、

次のとおり特選、入選、佳作が決まりました(敬称略)。

【特選】

- ◇おはようと げんきのたねを きょうもまく 上西陽希(由良川小1年)
- ◇声かけは 人を助ける 第一歩 西野陽夏(倉梯小6年)
- ◇「大丈夫？」 その一言が 愛言葉 中村萌花(城南中3年)
- ◇まず聴こう 怒鳴る前に 子どもの本音 土下喜正(新舞鶴小PTA)

【入選】安達蒼(池内小1年)、林陽南、平松翼(以上倉梯第二小4年)、山崎大輝(岡田小6年)、中口穂香(白糸中1年)、竹田芽生(青葉中1年)、尾崎詠伍(城北中3年)、石角春奈、坂田賢三(以上㈱京都銀行)、森田圭祐(関西電力㈱)

【佳作】宮本凜(倉梯第二小1年)、小柳世李(倉梯第二小2年)、志賀望海(高野小4年)、佐藤紗花(岡田小5年)、高本咲良(余内小5年)、水嶋聖奈(城南中1年)、榎田結輝人(和田中1年)、畠田琴奈(城北中2年)、大石美穂(㈱京都銀行)、大岡郁也(関西電力㈱)

【入賞作品の展示】12月3日(火)～10日(火)、バザールタウン舞鶴店、市役所本館で入賞作品を展示。

【問い合わせ先】人権啓発推進室(☎66・1022)

減らそう食品ロス

◇30・10で宴会を楽しく
◇特売のはずが損してる!?



食べ残しや期限切れなど、また食べられるのに捨てられた食品を指す「食品ロス」が社会問題となっています。経済的負担やごみの削減はもちろんですが、なにより食べ物がもったいない!

そこで、明日から実践できる食品ロス対策を紹介します。

【30・10で宴会を楽しく】

年末年始は忘年会・新年会と宴会が多くなるシーズン。外食時の食べ残しを減らすために、長野県松本市から全国に広まった「30・10運動」があります。

30・10運動とは、宴会の「初めの30分」と「最後の10分」は、自席で食事を楽しむ取り組みです。特に、会社などの宴会では、お酒を注いで回ったりあいさつしたりと、コミュニケーションが重視されて「本当は食べたいのに…」といった場合



▲ポップが目印

30・10でおいしく楽しく!



も多いもの。そして、この30・10運動で、特に大事なのが「幹事のアナウンス」です。幹事さんが、乾杯前と中締め前に30・10運動の実施をアナウンスすることで、あいさつ

やお酌を気にせず食事を取ることができるようになります。今年の忘年会から、さっそく取り組んでみてください。

【特売のはずが損してる!?!】

農林水産省によると、食品ロスの半分近くは、家庭から出ています。食べ残しや作りすぎ・買いすぎ、期限切れなどが主な原因。特売日に買いすぎたり、割引シールにつられて消費期限の近い食材を買って腐らせては、結果的に無駄遣いになってしまいます。使い切ってこそそのお得な買い物です。

また、期限にも「おいしく食べられる期間」を保証する賞味期限と「安心して食べられる期間」を示した消費期限の2つがあり、賞味期限の場合は、期限を過ぎてもすぐに食べられなくなるわけではありません。「期限切れ」の意味を正しく理解し、食べきり、使い切りを心掛けましょう。

このほか、食品ロスに向けた市の取り組みやアドバイスを市ホームページに掲載しています。右上のコードからアクセス可。



▲食べきり、使い切りで無駄をなくそう

《生活環境課》

Junior High School

市内7中学校の
特徴のある取り組みを紹介



自分たちが考え、行動し「引揚者を迎える歌」復活



大浦中卒業生の話を聞く全校生徒

大浦中卒業生に聴き取りをする生徒会

平和祈念式典で引揚者を迎える歌を響かせた

全校生徒に歌を披露する生徒会



当日は天気も晴れやかで5番まで歌いあげた

引き揚げのまち舞鶴。引揚船が入港するたび市民の皆さんが棧橋に向かい「おかえりなさい」「ご苦労さまでした」と声をかけ引揚者を迎え入れた。その当時、大浦中学校の教師がつくり、生徒が歌っていたとされる幻の歌「引揚者を迎える歌」があった。現在まで途絶えていたその歌を復活させ引き継ごうと、自ら考え、行動し、平和祈念式典で歌い上げたのが若

浦中の生徒たちである。これまでから若浦中学校では、引揚記念館へ出向いたり、生徒が語り部として活動したりと平和学習に熱心に取り組んできた。

引揚記念館では、歌の存在は把握していたが、引き揚げの終了と共にいつしか歌われなくなり、現在まで歌詞やメロディーさえ知られていなかった。幻ともいわれた歌の復活の転機は昨年、大浦中の卒業生が楽譜や歌の録音テープを同館に寄贈したことから。「曲を引き継ぎたい」という生徒たちの思いから復活へ向けて動き出した。まず、生徒会役員が当時歌を歌っていた卒業生から、歌っていた当時の思い、目の前で起こっていたこと、歌詞やメロディーなどを聞き取った。次に、2学期の始業式では、全校生徒が大浦中の第1期卒業生から話を聞き、生徒会役員が歌を披露。全校生徒へ歌を引き継ぐことを提案し、平和祈念式典で歌うことが決定、練習が始まった。そして迎えた平和祈念式典当日。生徒たちは、5番までである「引揚者を迎える歌」を見事に歌いあげた。式典のラストを飾る大きな舞台だったが、生徒たちで復活させたこの歌は引き揚げを経験した皆さんや若い世代の皆さんなど、多くの人の心にも響いただろう。

舞鶴市立若浦中学校

〒625-0007
舞鶴市字大波下18
☎64-0800

